

# 住宅火災の現状は？

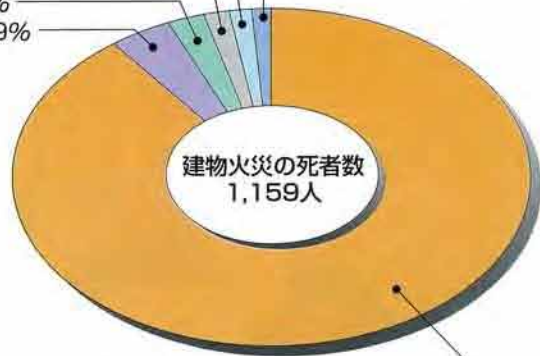
## 住宅火災による死者が急増中

### 死者の約9割は住宅火災で発生!!

平成16年中の建物火災による死者のうち、住宅火災（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）による死者数は89.6%を占めています。近年ではホテル・旅館、百貨店等よりも火災件数当たりの死者数が5～10倍程度となっており、住宅は建物のなかで最も死者が発生しやすい用途といえます。

建物火災による死者数の建物区分別割合（平成16年中）

- 劇場・ホテル・病院ほか 1.4%
- その他 1.6%
- 複合用途・特定 2.3%
- 複合用途・非特定 3.9%
- 学校・工場・事務所ほか 1.2%



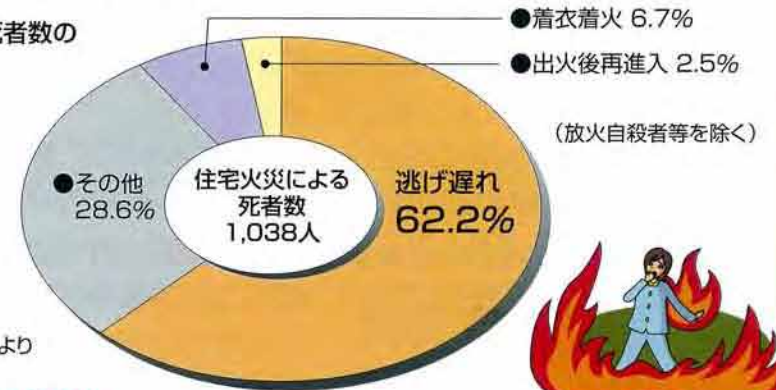
住宅（共同住宅・併用住宅含む）  
89.6%  
（放火自殺者等を除く）

平成17年版消防白書より

### 死者の約6割強は逃げ遅れによるもの

平成16年中の住宅火災による死者の発生状況を経過別に見ると、逃げ遅れが最も多く、全体の62.2%を占めています。

住宅火災による死者数の経過別割合（平成16年中）

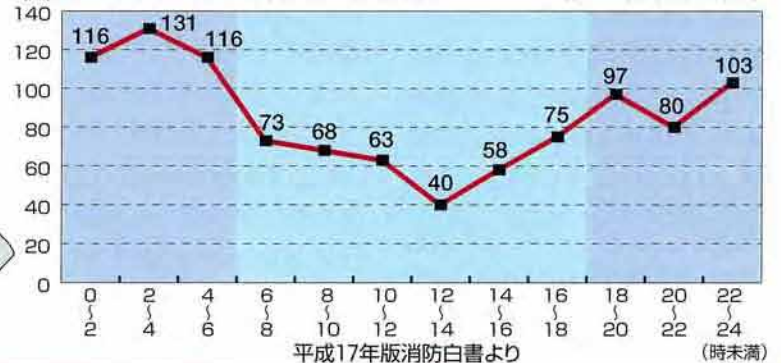


平成17年版消防白書より

### 逃げ遅れの要因は…

死者が発生した火災を時間帯別にみると、22時から翌朝6時までの睡眠時間帯における死者が44.9%を占めています。火災の発生に気がつかないために、逃げ遅れて亡くなる方が多いものと思われます。また、高齢化がますます進んでいくという予想から、このまま放置すると、今後とも死者数が増加することが考えられます。

住宅火災による死者数の時間帯別割合（放火自殺者等を除く）



平成17年版消防白書より